

水環境・湖沼（5）（1-B-16-4～1-B-17-4）

本セッションでは、富栄養化現象において出現する微生物に関連して4件の発表と、水温およびクロロフィルの数値解析に関して1件の発表がされた。富栄養化現象に係る微生物の研究といっても、内容的には多岐にわたっていた。

1-B-16-4は、藍藻類の除去を目的として、藍藻類を捕食する原生動物鞭毛虫類 *Monas guttula* の増殖特性を検討した研究である。ガラスビーズといった単純な担体によって、遊泳性である *Monas guttula* の増殖速度が20～30%増加することが報告された。

1-B-17-1では、*Microcystis aeruginosa* と *Cyclotella* とが取り上げられて、N:P比および希釈率が種の優先化に与える影響について検討されている。手賀沼での藻類の個体数や種変化を想定して検討されているが、手賀沼での種の変遷と異なる点があり、筆者も指摘するようにケイ素濃度の把握を欠いていたので、その理由について十分検討できなかったのが残念である。

1-B-17-2は、人為的汚濁負荷源のないダム湖から分離された、5種類の *Anabaena* 属の株について、鉄制限下における増殖特性を把握し、加えて、それらの系統学的位置を推定したものである。現実のダム湖における藻類の増殖傾向と比較されており、一致する結果も得られていて興味深い。

1-B-17-3は、霞ヶ浦における藻類優占種の変遷に溶存鉄の濃度が重要な役割を果たしていることを指摘している。しかしながら、同時に溶存鉄濃度だけでは説明ができない現象も存在することが指摘されており、藻類種の変遷という現象のメカニズムの奥深さをかいま見る思いである。

最後に、1-B-17-4では鉛直次元モデルという比較的簡単なモデルを用いた数値解析により、水温躍層やクロロフィルaの鉛直分布の観測結果をおおむね再現できることを示している。

以上、セッションでの発表研究の概要を紹介した。質疑では実験や測定の方法に関するコメントも含めて、活発な議論がなされ実り豊かであった。

（岡山大学大学院・環境学研究科 河原 長美）